

からだと心の免疫力をつける フマニタスのプロポリス

プロポリスとは プロポリスとはミツバチがつくる天然の抗生物質です。その効用は何と紀元前 3000 年頃から知られていました。ギリシャ語のプロ（前）ポリス（都市）に由来し、ミツバチが、樹の皮などから集めた樹脂に蜜蝋や唾液を混ぜて作りだしたネバネバの暗褐色の物質で、巣の内壁材の役目と、外敵を防ぎ巣の中を無菌状態に保つ役目をもっています。

プロポリスは、血液をきれいにし細胞膜を強化してウイルスに冒されにくい組織を作るフラノボイドの含有率がきわめて高いのです。そのため、プロポリスのもつ強い抗酸化作用、抗菌性、抗炎症作用、ウイルス抑制効果などが、私たちのからだの免疫力を高め、腫瘍の増殖を抑えたり、白血病患者の治癒力を高めたり、様々な皮膚疾患に効果をもたらすとされています。また治療目的だけでなく、美容や健康維持のためにも用いられています。

1972 年チェコで国際プロポリス・シンポジウムが開かれて以後、世界的に注目され始め、日本でも 1985 年名古屋で国際養蜂会議が開かれ、研究者によるプロポリス治療例が発表されてから注目され始めました。（主婦の友社『プロポリスの凄い薬効』木下繁太郎著を参考）

フマニタス慈善協会のはたらき さて私は、2004 年夏、友人の牧師と二人でブラジルの貧しい人達を訪ねて、二週間で約 9200Km の旅をしました。ブラジル南西部の町で福祉事業に携わるカトリック教会の佐々木治夫神父を訪ねることも目的の一つでした。

佐々木神父は上智大卒業後ブラジルへ教区司祭として渡り 47 年になります。今から 30 年前一人のハンセン病患者と出会ったことがきっかけで、社会福祉の勉強をやり直し、皮膚科の診療所を建てました。さらに貧しい人々が自立して生きるための支援グループ「フマニタス慈善協会」を設立し、以来 20 数年、さまざまな働きをしてこられました。食事にもありつけない貧しい家庭の子どもたちの学童保育、土地のない農民が土地を取得できるようにする支援、麻薬やアルコール中毒患者のための更生施設、若い人たちに農業技術を教えるための学校、老人のための福祉施設など、多岐にわたります。

希望のプロポリス ブラジルでは養蜂がさかんなことはご存じでしょう。この地方の農民も養蜂を営みプロポリスを生産しています。そのプロポリスが、ハンセン病患者やエイズ患者の回復に効くことが分かり、診療所でも治療に用いるようになりました。そのうちプロポリスの流通経路で、農民たちが輸出業者たちから原料を買い叩かれていることを知らされました。

そこで「フマニタス慈善協会」は、輸出業者よりも数倍高い値段で原料を買い取り、さらに自分たちで生産加工までしてしまう施設を作りました。そしてできた製品を日本など海外の教会を通じて買ってもらい、その協力金を活動の資金にするということを考え出しました。多くの人に

よい品を安く提供できるという自負は、農民たちの自立を促し、地域経済を支えるきっかけの示唆ともなり、プロボリスはまさに彼らに希望の光をもたらしました。

私たちにできること ブラジルの旅から帰国した私は、はじめて、日本でも佐々木神父を支援している教会の働きがあることを知りました。私はかつて、癌の患者さんがプロボリスで回復し社会復帰をしたのを知って驚いたことがあります。しかしプロボリスはとても高価な物だという印象を持っていました。確かに、現在新聞広告で見受ける市販品プロボリスは、標準使用量の一ヶ月分が8000円近くしています。ところが、フマニタスの製品は、同じ標準使用量を比較した場合、一ヶ月分1500円ですから、とても安いのです。しかも産地も加工過程もはっきり分かっていて、実際に診療所で使われている良い品質です。そこで、佐々木神父に連絡を取り、私のごく親しい知人を通してプロボリスの頒布を始めました。

佐々木神父の手紙 最近の佐々木神父から送られてきた私への手紙の一部をご紹介します。「プロボリスの購入を通し、いつも変わらぬフマニタス慈善協会へのご協力、ご支援を心からお礼申し上げます。・・・フマニタスではエイズ患者やハンセン病患者、免疫性と関係する皮膚疾患患者にも栄養食品としてプロボリス服用を実施し、好成績を上げています。

最近日本の沢山の方々から、花粉症がよくなったというお便りも戴いております。現在、日本で心配されている新型肺炎（SARS）の予防にも効くのではないかと思います。使用法につきましては皆様も十分ご存知のことと思いますが、ご自分の体にあった使用法を確立することが大切ではないかと思います。」

心の免疫力も フマニタスのプロボリスは、私たちのからだに免疫力をつけるだけでなく、心の免疫力も与えてくれます。プロボリスで健康を保ちつつ、佐々木神父や貧しい人たちのことを思い、彼らの貧しさを生み出している世界の構造を見据え、私たちをとりまく社会や平和の問題に心を繋げていただければ嬉しいです。途中で頒布をご奉仕いただく方にいわゆるマージンはありません。その方々のボランティアとしてのお働きに感謝します。最後にもう一度、佐々木神父のことばに耳を傾けたいと思います。

「聖書に『貧しい人々は幸いである』（ルカ 6:20）というイエスの言葉がありますね。ここブラジルにいと、この逆説は、その通りですよ。貧しい人たちは希望をもって生きています。」

私もその希望にあやかりたいと思っています。

(2005年春)

フマニタス福祉活動を助ける会会員

岩井健作（前日本基督教団神戸教会牧師）

鎌倉市二階堂 405 電話 0467-24-2450